

四国大学 体力Up、地域力Upプロジェクト

- (1) ラグビー教室
- (2) サッカー教室
- (3) 第2回イーグレッツサポーターズクラブフェスティバル
- (4) 大学フットボール対抗戦
- (5) 各種取組の収益化・自走化
- (6) 四国大学ソフトテニスクリニック

令和4年度大学スポーツ資源を活用した地域振興モデル創出支援事業

(1) ラグビー教室



日時：2022/11/25 (金) 19:00～20:30

参加者：10名 (中学生4名、小学生6名)

場所：四国大学しらすぎ球技場

講師：徳島県国体ラグビー女子コーチ 山中みゆ

内容

徳島県ラグビーフットボール協会より講師1名を派遣していただき実施。四国大学女子ラグビー部が指導補助を行った。

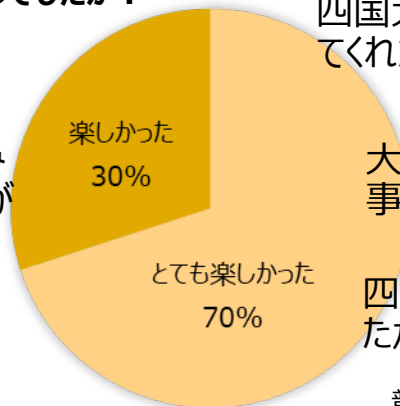
「状況判断とハンドリングの向上」がテーマで、体幹トレーニングやコンタクトトレーニング後に2対1や3対2の抜き合いを行った。プレー時の視線やボールの持って行き方、声の掛け方等を指導した。

後半は大学生も参加者に混じって全員でラグビーのゲームを行った。

アンケート結果

Q) ラグビー教室はどうでしたか？

四国大学の皆さんや他のスクールのみなどと楽しい練習ができたから



四国大学のみなさんが丁寧に教えてくれたのでとても楽しかった。

大学生のお姉さんたちと色々な事ができたから。

四国大学のお姉さんが優しくかったから。

普通、楽しくなかった、全く楽しくなかった：0

イベントの様子



△ ラグビー教室の様子①



△ ラグビー教室の様子②



△ ラグビー教室の様子③



△ ラグビー教室の様子④

(2) サッカー教室



日時：2023/1/21 (土) 18:00~19:30

参加者：88名 (10代:2名、20代:22名、30代:24名、40代:16名、50代以上:12名)

場所：四国大学しらすぎ球技場

講師：徳島ヴォルティスホームタウン推進部 3名

内容

徳島ヴォルティスより講師3名を派遣していただき実施。四国大学女子サッカー部が指導補助を行った。健康の保持増進、地域コミュニティの醸成を目的として、88名の参加者と一緒にサッカーを楽しんだ。

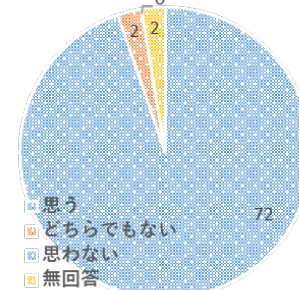
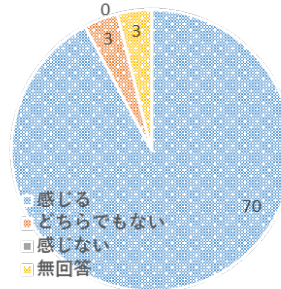
徳島ヴォルティスは、月に1回、同様の取り組みをしており、今回は、四国大学女子サッカー部との協働イベントとして取り組み、普段の参加者の倍近い人に参加いただけた。

また、今回は、大学スポーツの認知度の測定や今後の大学スポーツの振興、地域の課題解決につなげるために、参加者には事前・事後アンケートを実施した。

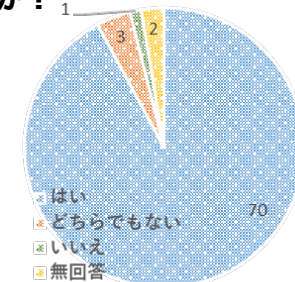
アンケート結果

アンケート結果 (有効回答数：76名)

Q) 今回の協働イベントを楽しみに感じましたか？



Q) 四国大学スポーツを応援したいと思いませんか？



Q) 今回の協働イベントは地域活性化につながると感じますか？

イベントの様子



△ サッカー教室の様子①



△ サッカー教室の様子②



△ サッカー教室の様子③



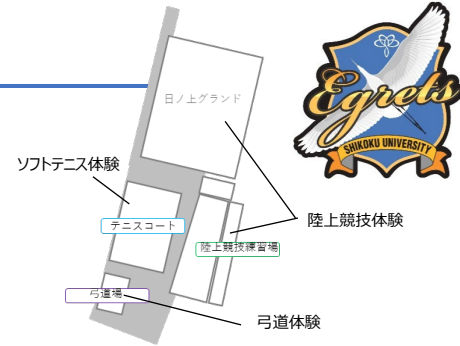
△ サッカー教室の様子④

(3) 第2回イーグレッツサポーターズクラブフェスティバル

日時：2022/12/3 (土) 10:00~12:15
参加者：102名 (大人53名、子ども49名)
場所：四国大学体育館、日ノ上運動場



会場：四国大学体育館



会場：日ノ上運動場



内容

概要

- ① 弓道体験
- ② バレーボール体験
及び紅白戦
- ③ ソフトテニス体験
- ④ 陸上競技体験

2022/7/9に四国大学しらさぎ球技場にて、第1回目となるイーグレッツサポーターズクラブフェスティバル (ラグビー体験、サッカー体験) を実施しました。

今回は、第2回目となるフェスティバルを開催し、四国大学体育館にてバレーボール体験会及び紅白戦、日ノ上運動場にて弓道体験、ソフトテニス体験、陸上競技体験を実施しました。

各部の部員 (バレーボール部15名、弓道部19名、ソフトテニス部35名、陸上競技部26名) 及びその監督・顧問が、「参加者に楽しんでもらえる」、「スポーツを身近に感じてもらえる」体験会となるよう企画をし、実施しました。

※各体験会の内容及びその様子について、次ページ以降にて説明します。

イベントの様子



△ サポーターズクラブ代表挨拶



△ 受付の様子 (体育館前)



△ 学長挨拶



△ シャトルバス乗り場の様子

(3) 第2回イーグレッツサポーターズクラブフェスティバル



① 弓道体験

内容

ア) 弓での素引き体験

7～8 kgの強さの弓を使用して、射法八節（弓道で行射を行う際に必要な動作）を順番に行った。

参加者に初心者用の『弾（ゆがけ）』を付けてもらい、実際に親指に弦を引っ掛けて部員の補助のもと弓を引いてもらった。

イ) ゴム弓で「離れ」を出す体験

（射法八節のうちの1つ）

練習で使用する『ゴム弓』を使用して、素引き体験と同様に引いてもらい、素引きでは出来ない『弦（ゴム）』を「離す」体験をしてもらった。

ウ) 四半弓での射的体験

『四半弓（通常の弓より長さが短い弓 3 kg～5kg）』を使用して、実際に矢を放ち、的（近的用・遠的用）に中てる体験を実施した。初めに部員が弓と矢の扱い方を説明し、手本を示した後に参加者に体験してもらった。危険を伴うため、対象は小学生高学年以上とし、射手同士の間隔を十分にとって実施した。

エ) 玩具の弓での射的体験

四半弓を引くことが難しい年齢層を対象に、『玩具の弓』を使用して、道場内に設置したオリジナルの的に向かって矢を放ち、的に中てる体験を実施した。

的に中った景品として部員作成の折り紙をプレゼントした。

参加者の声

「初めて弓を引き、的にあたって楽しかった」

「何本か引いてコツを掴んできた」

「もっと練習して上手になりたい」

「弓を引くのにこんなに力があると思わず、びっくりした」

「優しく教えてもらえて嬉しかった」

部員の声

「初心者の方に教えるのは難しかったが、弓を楽しんでくれて嬉しかった」

「弓道を始めた頃の自分を思い出した」

「参加者の子どもたちが中学生以上になったときにぜひ弓道部に入ってほしい」



体験の様子



△ ア) 弓で素引き体験



△ イ) ゴム弓で「離れ」を出す体験



△ ウ) 四半弓での射的体験



△ エ) 玩具の弓で射的体験

(3) 第2回イーグレッツサポーターズクラブフェスティバル



② バレーボール体験

内容

企画担当者の声

ア) 未就学児とボール遊び

大きなボールを転がし、学生と追いかけて遊ぶしながらボールに慣れてもらう遊びをした後で、風船ボールやソフトバレーボールを使用し、バレーボール(ボール遊びを)体験してもらいました。

ワンバウンドさせたボールをキャッチすることからスタートし、ワンバウンドでボールを相手にパスする、ノーバウンドで相手にボールを返すというように段階的にレベルアップをしました。

イ) 小学生初心者とソフトバレーボール

小学生の初心者とは、ソフトバレーボールを使用してオーバーハンドパスやアンダーハンドパスの基本を指導しました。その後、学生とペアになり、ボールを落とさずに何回パスのやり取りができるかなど、楽しくバレーボールを体験してもらいました。

ウ) 経験者とバレーボール

経験者には小学生用のバレーボールを使用し、オーバーハンドパスやアンダーハンドパスの基本を確認した上で、学生と一緒にネットを挟んでバレーボールを体験してもらいました。

「青少年の体力低下」を改善するためには、まず「**身体を動かすことの楽しさ**」を体験してもらう必要があると考え、

今後、運動を継続して行くきっかけとなるよう、それぞれの年齢に応じた方法で楽しみながらバレーボールを体験してもらうことを計画し、実施しました。

本学の学生が2チームに分かれて実施した紅白戦では、

スピードや力強さなどが伝わり、バレーボールに興味を持っていただけと思っています。

体験の様子



△ ア) 未就学児とボール遊び



△ イ) 初心者とソフトバレーボール①



△ イ) 初心者とソフトバレーボール②



△ 紅白戦の様子

(3) 第2回イーグレッツサポーターズクラブフェスティバル



③ ソフトテニス体験

内容

幼児、小学生及びその保護者に次の内容で体験会を実施。

- ・講師によるソフトテニスの基礎（グリップの握り方・ボールを打つタイミングなど）のレクチャー
- ・一本打ち（ストローク・ボレー・スマッシュ）
- ・講師や学生とラリー
- ・講師や学生とミニゲーム
- ・用具を使用してのアップ

講師はヨネックス(株)の実業団選手とソフトテニス部監督が務めました。

企画担当者の声

幼児、小学生がボールを打つ、器具に触れる機会を楽しむことに加え、保護者も一緒にプレーすることで、「**スポーツの魅力**」を改めて感じていただけたと実感している。

さらに、本学ソフトテニス部の施設・選手を間近に感じていただき、「**地域に根差した四国大学**」であることを一層PRできた。



▶ 地元企業の方にも参加いただきました。

体験の様子



△ スマッシュの体験



△ ストロークの体験①



△ ストロークの体験②



△ 大人も体験

(3) 第2回イーグレッツサポーターズクラブフェスティバル



④ 陸上競技体験

内容

小学生を対象に、次の内容に分かれて体験会を実施。

A : ハンドボール投げ・握力

(多目的G)

B : 50m走・上体起こし

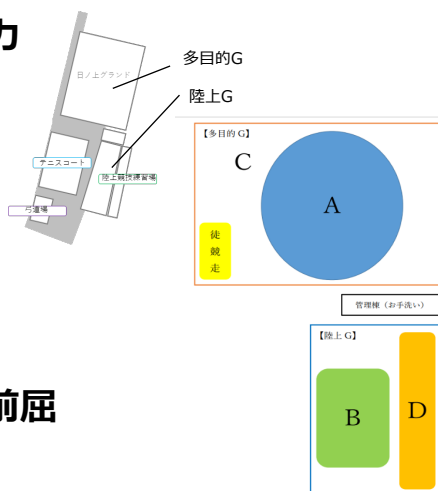
(陸上G)

C : 持久走・反復横跳び

(多目的G)

D : 立ち幅跳び・長座体前屈

(陸上G)



企画担当者の声

「楽しく新体力テスト得点アップ」と題して、陸上競技を通じて「走る・跳ぶ・投げる」の体力の基本となる運動を大学生と共にいき、子どもの体力向上に取り組んだ。

大学生が小学生・幼児とスポーツを行う機会は少ないため、**学生も子どもを指導する立場としての配慮を行う等、普段とは違う学びがあった。**また、小学生・幼児は、「楽しかった・またやりたい」という言葉を口にしており、**両者がスポーツのやりがいや楽しみを感じることができた時間となった。**

今回の事業を通じて身体を動かす楽しさが地域に浸透すること、また、今後子どもの体力低下問題が少しでも改善され、健康維持に繋がっていくことを期待している。

体験の様子



△ 50m走・上体起こしの体験①



△ 50m走・上体起こしの体験②



△ 50m走・上体起こしの体験③



△ ハンドボール投げ・握力の体験

(3) 第2回イーグレッツサポーターズクラブフェスティバル



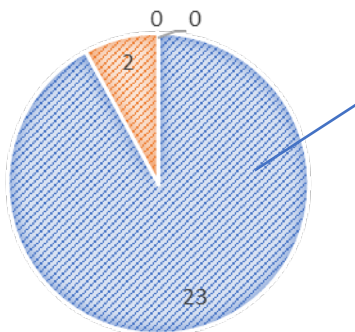
日時：2022/12/3 (土) 10:00~12:15
参加者：102名 (大人53名、子ども49名)
場所：四国大学体育館、日ノ上運動場

アンケート結果

Q) 今回のフェスティバル・体験会はどうでしたか？

●中学生以上：回答数：25

- 大変良かった
- 良かった
- どちらともいえない
- 良くなかった



スポーツに触れ合えるキッカケになった。

子どもたちが様々なスポーツに気軽に体験でき、優しい大学生のお兄さんお姉さんにほめられ、楽しんで参加できたことに感謝します。定期的
に開催していただきたいです。

応援している陸上部の選手と接することができた。
すそのが広がることを期待しています。

たくさんのスポーツを体験できて、とても楽しかったです。学生さんがどの方とってもやさしくて、子ども達もうれしそうでした。

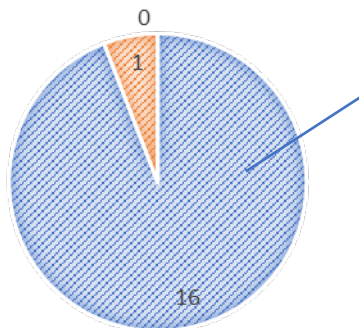
Q) 改善点があれば教えてください。

どのスポーツもとっても充実していたので、ゆっくり体験できるともっとよかったと思います。

会場が2つに分かれているため、後になってバレー体験がしたかった！となったとき移動がスムーズにいかず、あきらめてしまったため、可能であれば会場がひとつ、もしくは体験できる時間をもっと長くともってもらえるとありがたいです。

●小学生：回答数：17

- 楽しかった
- 普通
- 楽しくなかった



やった事のない体験をして、楽しかったし、スポーツも2つ知って本当に良かったと思います。また、いろんな事もどんどん体験していろんな事を学びたいです。

弓道体験とか、**めったにできないことができて、楽しかった。**

ストレッチのやりかたや、おにごっこができて楽しかったです。

陸上でほめてくれた。

(4) 大学フットボール対抗戦



日時：2022/12/10 (土) 13:00~17:00

参加者：78名 四国大学女子サッカー部 24名 vs 追手門学院大学女子サッカー部 30名
四国大学女子ラグビー部 13名 追手門学院大学女子ラグビー部 11名

場所：四国大学しらさぎ球技場

スケジュール

- 13:00-13:40 ラグビー W-UP
- 13:45 開会式
- 14:00-14:30 女子ラグビー試合
7分×2
- 14:30-14:50 サッカー W-UP
- 15:00-16:00 女子サッカー試合
25分×2
- 16:15 閉会式
記念撮影

内容

2019年にスポーツ庁に採択された「大学スポーツ振興の推進事業」の中で「大学フットボール対抗戦」の事業を始めて、今回で3回目の対抗戦となった。

(2020年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止、2021年度は、会場を追手門学院大学に移して女子サッカー競技のみ実施した。)

前半に女子ラグビーの試合を、後半に女子サッカーの試合を実施した。両試合ともに拮抗した内容で大いに盛り上がりを見せた。また、お互いに自チームへの応援に力が入った。

対抗戦を行うことで、**学生が、イベントの司会進行、イベントの演出や諸室準備、駐車場整理など、積極的に運営に関わることができた。**また、学生の愛校心を醸成するとともに学生のみならず、大学同士の交流も深まった。学生同士もこの対抗戦を楽しみにしており、**今後の両大学スポーツの発展につながっていくと感じた。**

イベントの様子



△ 開会式の様子



△ ラグビー試合の様子



△ サッカー試合の様子



△ 記念撮影

(5) 各種取組の収益化・自走化



STAR プロジェクト

四国大学トップアスリート育成プロジェクト

四国大学では徳島からスポーツ分野で日本のトップ、世界大会やオリンピックを目指す人材を育成するため、スポーツ分野特別奨学金制度により意欲ある学生確保や競技力向上のための施設整備、公認スポーツ栄養士による栄養サポートなどに取り組んでいます。

この結果、県外出身者の進学者数増、全国レベルのスポーツ大会での優勝等の成果を挙げています。さらに、卒業後においても、継続的な活躍の場を確保し、地域活性化にも貢献すべく、経済団体や企業、自治体など関係機関の皆様にご支援いただき、「四国大学スポーツ人財育成 STAR(Shikoku University Top Athletes Rearing)プロジェクト」を立ち上げ、活動しています。

★イーグレッツの魅力発信

★イーグレッツの活動・成果を発信

★卒業生へのアプローチ



賛同企業94社

(R5.1.31現在)

四国大学スポーツ

イーグレッツサポーターズクラブ

四国大学が強化指定するスポーツ部（陸上競技部、弓道部、女子サッカー部、女子バレーボール部、女子ラグビー部、ソフトテニス部）を徳島県の鳥しらさぎに因み「イーグレッツ」と総称し、その活動を積極的に応援するとともに全国にイーグレッツの魅力を発信することを目的に設立しました。

会員特典として、イーグレッツオリジナルTシャツの贈呈、学生アスリートとのスポーツ体験イベントへのご招待、大学スポーツ施設の貸出等があります。

★地域と学生との交流

★定期的なイベントの開催

★イーグレッツの活動・成果を発信



会費：個人会員一口4,000円
団体会員一口30,000円

令和4年度
個人会員 66名
団体会員 28社

(R5.1.31現在)

(6) 四国大学ソフトテニスクリニック



日時：2022/12/3 (土) 13:00~17:00

参加者：66名 (県内中学生)

場所：四国大学日ノ上運動場テニスコート

講師：ヨネックス株式会社実業団選手 林田和樹氏、高月拓磨氏

内容

- ・講師による基礎技術の確認
- ・試合で活用する応用練習 (ストローク・ボレー・サーブ)
- ・競技力向上のための用具を使用するトレーニング方法

アンケート結果

Q) 今回のクリニックはどうでしたか？

大変良かった×48人、良かった×3人、未回答×15人

「講師の方たちの説明がとても分かりやすかった」

「自分では気づかなかった改善点を見つけることができた」

「新しいことが分かってよかった」

今回のようなクリニックがあればまた参加したい×51人

企画担当者の声

多くの参加生徒に意識改善が見られ、競技力向上に繋がった。

また、本学の施設において、ソフトテニス部員のサポートを間近に受けることにより、「将来競技者として活躍する場が徳島県内にあること」を多くの生徒に認識していただけたと思う。

イベントの様子



△ テニスクリニックの様子①



△ テニスクリニックの様子②



△ テニスクリニックの様子③



△ テニスクリニックの様子④

(7) 外部評価委員会



日時：2023/1/25 (水) 17:00~19:00

場所：Zoomによるオンライン会議

参加者(本学)：松重(四国大学スポーツ推進機構本部長)、佐野(四国大学スポーツ推進機構副本部長)、平田SA、山中SA、中田ASA、黒羽ASA

外部評価委員

・中塚委員長

(徳島大学准教授)

・高原委員

(徳島県スポーツ協会専務理事)

・南委員

(徳島インディゴソックス球団代表)

・金本委員

(徳島県高等学校体育連盟会長)

・伊藤委員

(徳島新聞社運動部長)

外部評価委員の意見

金本委員

四国大学の取組を参考に鳴門渦潮高校のスポーツ科学科の生徒の活動の参考にしたい。

高原委員

身近な遊びから子どもたちに教えていく視点は重要だ。各事業後にアンケート等で評価していることは次につながり大きく発展する可能性を感じる。

伊藤委員

中高生から県外へ流出しているアスリートが多いなか、四国大学は徳島から日本代表の輩出へ向けて頑張っている大学であるので引き続き頑張りたい。

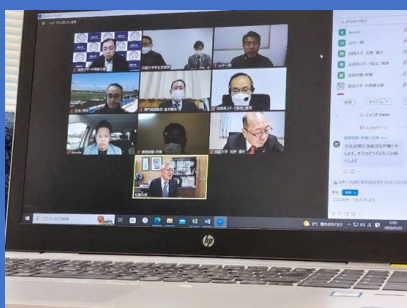
選手が指導者の立場で交流・経験を持つことは、選手の立場になった時の気づきに繋がる。

中塚委員長

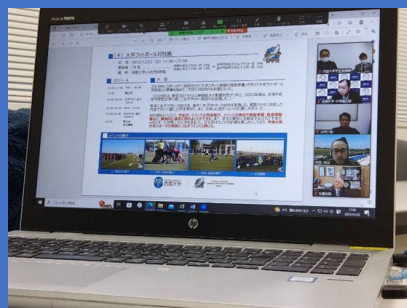
プレイヤーズファーストからプレイヤーズセンター、そして**アントラージュ教育**へとスポーツに対する考え方・とらえ方は大きく変化してきている。とくに、**アントラージュをもっと意識した事業を考えていくことも大切なのではと考える。**

今回の反省点を踏まえて、今後活かして欲しい。

委員会の様子



△ 委員会の様子①



△ 委員会の様子②

今後の取り組みについて(四国大学 松重学長)

スポーツに真摯に取り組むことは地域の活性化にも繋がる。ただ、スポーツの費用対効果を考えることも重要であるので、**更なるブラッシュアップ**を行っていく。

スポーツの持つ力を**発信していく**ことは大学としても重要な施策の1つと考えているので、更に努力していく。